

## 水戸市立赤塚小学校 中嶋 誠明 先生



使用学年 : 1~6年生  
使用科目 : 国語・算数・理科・社会・英語  
導入ソフト : ニューコース学習システム

茨城県の中核市である水戸市では「水戸市版GIGAスクール構想」を掲げ、「変化する社会に主体的に対応できる子どもたちを育む」ことを目標に、ICT教育およびその環境整備を推進しています。

水戸市立赤塚小学校では一人一台端末が導入された昨年度より、情報主任をされていた中嶋誠明先生を中心に、学校で使用する学習ソフトについて研究を始めました。

初めはいくつか候補があったそうですが、使いやすさや学力向上の観点から「ニューコース学習システム」を採用いただき、授業や配信にご活用いただいています。

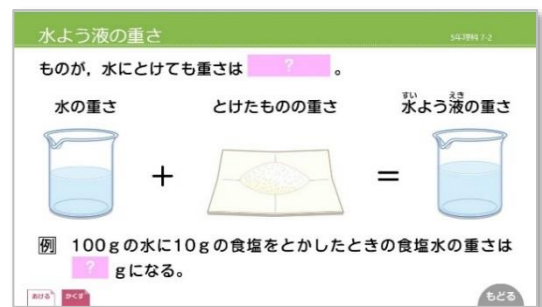
今回は中嶋先生に具体的な活用方法や採用の決め手となったポイントなどを伺いました。

### 活用シーン

◆ 私は昨年、5年理科を担当していました。以前から授業に動画を取り入れていましたが、「ニューコース学習システム」では、項目ごとに動画や要点整理カード、ドリルがセットになっているので「単元の終わりに動画を見る→要点整理カードを全員で確認する→宿題では、もう一度カードを確認したあとドリルに取り組む」という流れで活用し、児童の理解度が上がったことを実感しました。

◆ 国語や算数なども短い時間で手軽に取り組めるため、宿題や朝学習に活用している先生もいます。

◆ 本校は算数の学力向上を目的として、算数についての指導の個別化、学習の個性化に取り組んでいます。そのため、今年度から6年算数でAIが児童の理解度に応じて問題を出題する「パーソナルモード」の利用も始めました。児童にとっては、それぞれ違うルートで学習が進むのが学習意欲につながるようで、友達の進み具合を見て切磋琢磨しながら学習に取り組む姿勢が見られました。先生は児童の理解度を確認しながら指導できるため、その子の苦手な部分を一つずつ潰していける点がよい機能だと感じています。



▲ 小5理科の動画「要点解説ムービー」(上)と「要点整理カード」画面(下)。

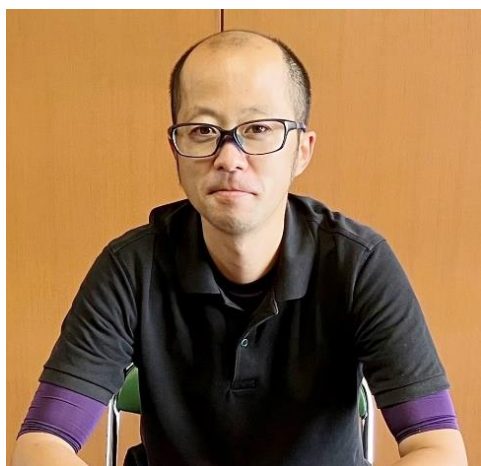
## 評価ポイント

◆「ニューコース学習システム」を選んだ理由の一つに、デザインや操作性のよさがあります。とくに子どもたちは、操作が難しいと、初回で使いたくなくなってしまい、学習意欲がそがれてしまいます。説明しなくても、一目見て迷わず使うことができるのは、デジタル教材選びの重要なポイントでした。

◆ただし、簡単に使えるといっても同じ問題が繰り返し出てくるだけのドリルでは、子どもたちは解答の順番を覚えてボタンを押すだけになってしまい、学習効果が得られません。しっかりした学習内容に加え、新しくAI機能も使えるようになる、という点も評価のポイントでした。

◆子どもだけでなく、先生向けの管理画面の使いやすさも決め手の一つになりました。タッチひとつで配信できるシンプルさが好評で、「ニューコース学習システム」の使用率はほかのデジタル教材と比較しても群を抜いており、最終的に、昨年度、複数のデジタル教材を試した先生9人中9人全員が、「ニューコース学習システム」がよいと回答しました。

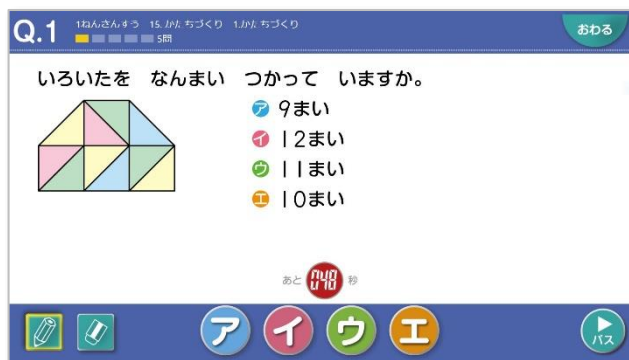
今年度は、例年夏休みの宿題としていた分厚いドリルをやめ、薄い紙のドリルと「ニューコース学習システム」のドリルの組み合わせに切り替えるなど、デジタル教材の利点をフル活用しています。



▲インタビューにご協力いただいた  
中嶋誠明先生

◆「ニューコース学習システム」を導入してから、実際に学習意欲が高くなかった子どもたちからも、積極的に質問を受けたり、点数があがった、勉強が楽しくなったといった前向きな声が聞かれるようになりました。

◆とくに私がとったアンケートでは、「理科が好き」と答えた児童が4割から7～8割になるという変化がありました。教師としてこれほどうれしいことはありません。以前から学研の動画を高く評価していましたが、今後も活用していきたいです。



▲1年さんすうのドリル画面。解答の仕方などに迷うことなくスムーズに学習が進められる。



▲宿題配信機能もシンプルな構成。